

第18回 在宅医療推進フォーラム

やっぱり最高！わが家・わが町 ～在宅医療の未来を語ろう～

開催日時 2022年11月23日(水・祝) 10:00～17:00 (開場 9:30)

開催形式 会場開催 および YouTubeライブ配信

会場 東京ビッグサイト 会議棟7階 国際会議場
(〒135-0063 東京都江東区有明3丁目11番1号 東京ビッグサイト内)

プログラム

総司会 鶴岡 優子 (日本在宅医療連合学会 理事)

- 10:00-10:10 開会によせて 住野 耕三 在宅医療助成 勇美記念財団 理事長
新田 國夫 日本在宅ケアアライアンス 理事長
- 10:10-12:10 **ブロックフォーラム (全国在宅療養支援医協会企画)**
(10:10-10:45) 【第1部】事業報告
司 会 島田 潔 全国在宅療養支援医協会 事務局長
【報告者(予定)】 大友 宣 (北海道)、村井 邦彦 (栃木県)、鈴木 央 (東京都)
上村 伯人 (新潟県)、安中 正和 (長崎県)
田島 和周 (熊本県)、新屋 洋平 (沖縄県)
- (10:45-12:10) 【第2部】パネルディスカッション「わが町の在宅医療 ～7つの視点から強み、弱み～」
司 会 太田 秀樹 全国在宅療養支援医協会 事務総長
【パネリスト(予定)】 第1部で事業報告頂いた方々、他
- 12:10-13:15 休 憩
- 13:15-13:35 **基調講演①「在宅医療の現状と課題(予定)」**
【演 者】 榎本 健太郎 厚生労働省 医政局 局長
座 長 荒井 秀典 国立長寿医療研究センター 理事長
- 13:35-14:15 **基調講演②「在宅医療の原点をふりかえる(予定)」**
【演 者】 黒岩 卓夫 NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 名誉会長
座 長 小倉 和也 NPO 地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 会長
- 14:15-14:55 **特別講演「在宅医療の未来を語る(予定)」**
【演 者】 山崎 章郎 医療法人社団悠翔会 ケアタウン小平クリニック 名誉院長
座 長 蘆野 吉和 山形県庄内保健所 所長
- 14:55-15:10 休 憩
- 15:10-16:50 **シンポジウム「やっぱり最高！わが家・わが町」**
【シンポジスト】 花戸 貴司 東近江市永源寺診療所 所長
福満 美穂子 東京都医療的ケア児者親の会 代表
大石 春美 穂波の郷クリニック MSW/緩和ケア支援センターはるか 所長
高橋 和人 特定非営利法人 里・つむぎ八幡平/一般社団法人すばる 理事長
榊原 千秋 合同会社プラスぼぼ 代表
鈴木 邦彦 医療法人 博仁会 理事長/茨城県 医師会会長
座 長 武田 俊彦 日本在宅ケアアライアンス 副理事長
16:50-17:00 閉会によせて 辻 哲夫 東京大学 高齢社会総合研究機構 未来ビジョン研究センター 客員研究員
大島 伸一 国立長寿医療研究センター 名誉総長

共催：国立研究開発法人国立長寿医療研究センター、公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団

共催：一般社団法人日本在宅ケアアライアンス

全国在宅療養支援医協会、全国在宅療養支援歯科診療所連絡会、全国訪問看護事業協会、全国薬剤師・在宅療養支援連絡会、
日本介護支援専門員協会、日本ケアマネジメント学会、日本在宅医療連合学会、日本在宅栄養管理学会、日本在宅ケア学会、
日本プライマリ・ケア連合学会、日本訪問リハビリテーション協会、日本老年医学会、全国国民健康保険診療施設協議会、
全日本病院協会、日本訪問看護財団、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク、日本ホスピス緩和ケア協会、
日本ホスピス・在宅ケア研究会、日本在宅ホスピス協会

後援(予定)：厚生労働省、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本薬剤師会、公益社団法人日本看護協会、
公益財団法人長寿科学振興財団 (順不同、一部法人格略)

開催趣旨

コロナパンデミックによって、病床の逼迫をはじめ、診療所での発熱者の扱い、予防接種の実施、さらには高齢者施設等でのクラスターへの対応など、我が国の地域医療は混乱をきわめ、パンデミック禍における医療提供体制の脆弱性が露呈しました。そこで、自宅や宿泊施設での療養体制の整備が急務となり、在宅医療に新しい役割が求められることとなりました。

従来の在宅医療では、「治し、支える医療」が求められる高齢者、障がい児・者、がん末期などの在宅療養生活を支えることに大きな目的を持っていました。

ところが、コロナ禍では一定程度までの重症度を有する感染者を在宅、施設で対応する方向性が示され、一部からは不安視する声も聞かれたものの、コロナ患者の在宅や宿泊施設での療養が始まると、補液をはじめ、酸素投与やステロイド薬、抗ウイルス薬等の投与等も安全に実施できる在宅医療への信頼が高まり、急性期疾患の治療における在宅医療の有益性も社会で共有されるに至りました。コロナ禍を機に在宅医療の機能は大きく幅を広げたといえるでしょう。つまり地域ぐるみの支えあいが必要とする地域包括ケア体制の大事さをコロナ禍は改めて教えてくれました。この基盤は全国的にまだ定着に遠く、いかに普及させるか、今後の重い課題です。

慢性期医療の位置づけで医療と介護を一体的に提供する在宅医療とコロナを始めとし、救命も視野にいれた急性期医療としての在宅医療は、その目的も提供する手法も異質といえますが、通院が困難となった患者に提供され、人生を支える在宅医療の本質的な意義と役割を忘れることはできません。

コロナ禍を乗り越えた先に見える希望の光景もまた「やっぱり最高！わが家、わが町」といえる地域を増やしていこうではありませんか。コロナパンデミックという試練を機に新たな役割を担うことになった在宅医療の未来を、原点に立ち返って語り合いたいと思います。

申込方法

●インターネットからお申し込みの場合

「第18回在宅医療推進フォーラム」のページにアクセスいただき、お申し込みください。

URL : https://www.yuumi.or.jp/doctor_forum/forum_18th/

●携帯電話、スマートフォン等からお申し込みの場合

右側にある、2次元バーコードよりアクセスいただき、お申し込みください。

第18回在宅医療推進
フォーラム
2次元バーコード



●FAXでお申し込みの場合

別紙「第18回在宅医療推進フォーラム 参加申込 FAX 用紙」に必要事項を記入の上、
財団事務局（FAX : 052-957-4801）までお申し込みください。

お問合せ先・事務局

●お申し込みについて

第18回在宅医療推進フォーラム 運営事務局〔平日：10：00～17：00〕

電話：03-6823-7674 FAX：052-957-4801 メール：forum@yuumior.jp

●プログラム等の内容について

勇美記念財団 事務局〔平日：10：00～16：00〕 電話：03-5226-6266